

**授業概要**

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するためには、学齢期から継続して行ってきた体育・スポーツをさらに主体的・対話的に深く学ぶ必要がある。本授業では、講義でスポーツを「する、見る、支える、学ぶ」さらに「競う」観点から運動と健康の関係を学ぶ。実技においては、様々な運動領域（スポーツ）の特性に応じた楽しみ方や多様性を体験し、我が国固有の伝統文化としての行動の仕方や考え方についても指導する。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス・授業の概要・学校体育の目的と内容、学習評価のあり方
第 2 回	スポーツの国際化（東京オリンピックパラリンピックとオリンピックの歴史）
第 3 回	現代スポーツの課題（ドーピング・国籍変更・暴力・パワハラ・スポーツ事故など）
第 4 回	スポーツ活動中の重大事故について（心停止・頭部打撲・頸椎損傷・熱中症など）
第 5 回	グループ別の運動展開①（ゴール型・ネット型）
第 6 回	グループ別の運動展開②（ゴール型・ネット型）
第 7 回	グループ別の運動展開③（ゴール型・ネット型）
第 8 回	グループ別の運動展開④（ゴール型・ネット型）
第 9 回	グループ別の運動展開⑤（ゴール型・ネット型）
第 10 回	グループ別の運動展開⑥（ゴール型・ネット型）
第 11 回	グループ別の運動展開⑦（ゴール型・ネット型）
第 12 回	グループ別の運動展開⑧（ゴール型・ネット型）
第 13 回	グループ別の運動展開⑨（ゴール型・ネット型）
第 14 回	学校体育の意義と目標（障がい者スポーツを含む・スポーツ障害・運動障害・二極化等）
第 15 回	健康科学Ⅱの振り返り（子ども達の未来とスポーツ活動・非認知能力の育成、評価）
第 16 回	実技試験・レポートの提出

**到達目標**

現代社会とスポーツ活動に関する知識が十分に理解できること。スポーツを「する、見る、支える、学ぶ、競う」の観点から豊かなスポーツライフ及び多文化社会に必要な知識と態度を身に付けること。

学校体育の目的と内容を把握し、全員参加のスポーツ活動が実践できること。

**履修上の注意**

1 時間目のガイダンスに原則出席すること。実技は体育館用シューズを用意し運動に適した服装で出席すること。

実技は、履修者の人数、その他の状況に応じて内容を変更することがある。

交通機関の遅れ等のやむを得ない場合は、遅刻を認めることがある。

**予習・復習**

自己の日常生活や運動、健康状態を把握し管理する習慣を身に付けること。授業内容のみでなく食事や睡眠を含む毎日の運動記録をノートに記入すること。国際化社会とスポーツに関する問題意識を持つこと。

**評価方法**

授業に取り組む意欲・態度（40%）ミニレポート（20%）レポート（20%）実技試験（20%）

**テキスト**

- ・教科書名：小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説 体育編
- ・著者名：文部科学省